

# 雑草イネ防除には5月中旬以降の移植と除草剤3剤以上の処理が3年以上必要

農業総合センター農業研究所

## 【研究の概要】

水稲経営においては、規模拡大に伴い圃場管理をより効率的に行う必要性が高まっていますが、雑草イネの発生が県内各地で確認されており、農業者が取り組みやすい効果的な防除方法の確立が改めて必要となっています。雑草イネは種子が穂から落ちやすく、圃場内にまん延しやすいという特徴があります。また、多くは赤米であるため、収穫物に混入すると品質の低下を招きます。そこで、遺伝的に多様な県内各地の雑草イネの出芽時期の特徴を明らかにし、これに対応した有効な防除技術を確立しました。



畝間に発生した雑草イネ



穂から種子が非常に落ちやすい



赤米混入での品質低下

写真 雑草イネとその問題となる特徴など

## 【研究内容】

雑草イネを効果的に防除するための田植え時期や除草剤の使用時期・回数について明らかにしました。

## 【研究成果】

- 茨城県内で多くの発生を認めている熱帯ジャポニカ由来の雑草イネ3系統（A～C）の出芽は、4月後半から5月前半が盛期となり5月後半以降も続きます（図1）。このため、出芽盛期を過ぎた後の5月中旬以降に代かきをして雑草イネを土中に埋没させます。さらに、その3日以内に栽培イネの田植えを行い、その当日に雑草イネに有効な除草剤の1剤目を処理します（除草剤は、雑草イネが緑色の葉を出してからでは効きません）。雑草イネの出芽は6月上旬まで続くので、2剤目を田植え後5～7日、3剤目を同14日を目安に処理します。
- 雑草イネの種子は圃場内で2年以上生存し出芽能力を有することが分かりました。多発生水田では防除対策を3年続けても種子が水田に残っている場合もあるので（図2）、雑草イネが生えてこなくなるまで対策を継続します。

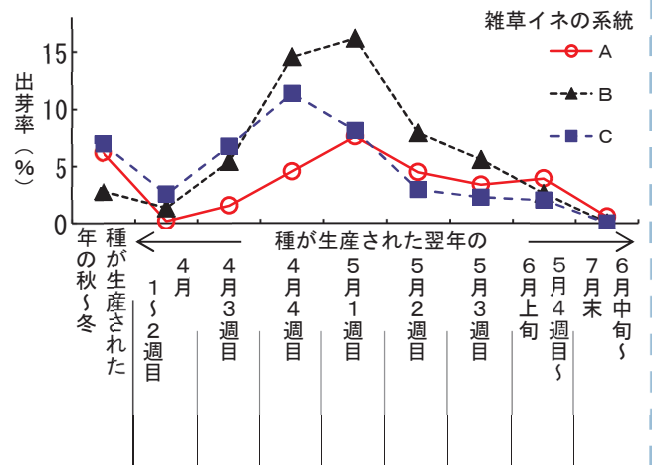


図1 雑草イネの出芽時期の特徴 (R1～4平均)

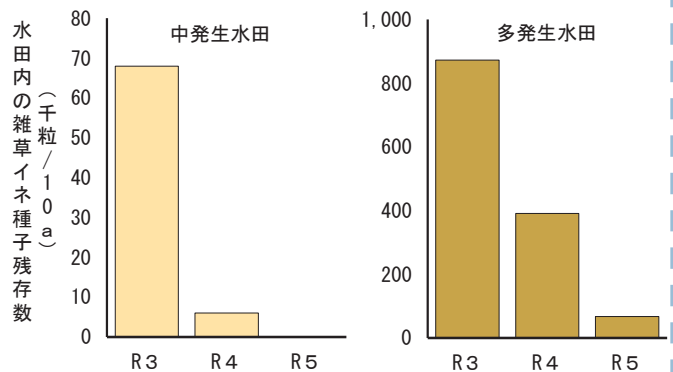


図2 雑草イネに対する除草剤3剤処理の防除効果

## 【将来の展望】

多大な労力を要する手取り除草の作業時間を削減でき、雑草イネのまん延を省力的に防ぐことが可能となります。